

報告の成果と課題(第36回慶應EU研究会 2008年12月13日)

坂井一成(神戸大学)

報告タイトル:EUの対中東政策～予防外交の推進に向けた枠組み

【成果】

本報告は、EUが中東地域に対してどのような外交を展開しているのかを、とりわけ予防外交の観点から考察した。

具体的には、EUの対中東政策の変容・展開を、1970年代以降、2008年に発足した地中海連合までを視野に入れて整理した。その上でEUが提供する様々な政策枠組みを、紛争が発生した後の「紛争解決・平和構築」の枠組みと、紛争発生前にこれを未然に防ぐことを目指す「予防外交」とに区別し、各々の枠組みにおいてどのような取り組みがなされ、どのような成果が上がり、どのような課題を抱えているかを考察した。

特に予防外交の枠組みとしてバルセロナ・プロセスと欧州近隣諸国政策(ENP)について詳しく検討し、各々マルチラテラル、バイラテラルな枠組みとして果たしている機能を分析した。

【課題】

時系列的な政策枠組みの分析・分類と、それぞれが抱えている課題については明らかにできたが、2008年発足の地中海連合の位置付けについてはまだ不明な点も多く、今後のフォローアップが必要である。

さらにEUの中東政策が、当該地域にいかなる政策的影響力を及ぼすのかについての理論的考察にまでは十分に踏み込めなかったため、精査を続けたい。